

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070703238		
法人名	有限会社 ミラクル		
事業所名	グループホーム この葉		
所在地	福岡県北九州市八幡西区三ツ頭2丁目15-10		
自己評価作成日	平成22年10月20日	評価結果確定日	平成22年12月31日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成22年11月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居を受け入れ、この葉で生活を送っていき、高齢や、病状が悪化し、入退院を繰り返そうが、重度化しても、本人、家族が望めば終末期まで支援している。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホームこの葉は、設立時より、「看取りの介護」を理念の柱に定め、看護師をベースとした職員体制を軸に、医療機関との連携を図りながら、重度化した場合や終末期にあり方について、指針をもとに、本人、家族、医師、職員間で、話し合いを重ねながら、思いや方針を共有し、主体的に取り組んでいる。実際に看取りの経験も重ねている。この方針を貫く運営は、必然と入居者の重度化と向き合わざるを得ない現状であるが、そんな中において、代表者・管理者、職員は、日常生活で、入居者一人ひとりの思いや意向の把握に努め、本人本位の支援を行っている。特に入居者の楽しみのひとつである食事については、調理専門の職員を配置し、一人ひとりの状態、嗜好を反映した細やかな対応を行っている。出来合いのものを使用せず、薄味で素材を味を活かした食事提供がなされている。グループホームこの葉は、設立時の志しを忘れることなく、信念をもって、入居者一人ひとりと向き合いながら、日々の業務に取り組んでいる、今後の役割がさらに期待される事業所である。</p>
--

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	心にゆとりを持ち利用者と接すよう、又理念のそった介護に向け努力している。	「地域密着型サービス」の意義を直接的に表現する文言は、見受けられないが、管理者・職員は、その意義を十分に理解し、設立時からある独自の理念の中に、「地域密着型サービス」の意義を読み取り、その実践に日々取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員は出勤時、又、利用者と散歩時など積極的に挨拶や会話を持つようとしている。	地域の清掃活動や消防訓練に参加する等、地域の一員として積極的に活動している。また敷地内にある畑で、地域住民から、作物栽培を習う等、日常的な交流の機会の拡大に努めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所内の行事に参加の促しを行っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在の状態報告、又意見等があれば、職員間で話サービスの向上に努めている。	家族代表、町内会、地域包括支援センター職員、管理者らが出席し、3ヶ月に1回実施している。事業内容の報告を行なっている。議事録からは、活発な意見交換の様子は確認出来なかった。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時連絡を取り、情報を伝えている。	質問や相談等、必要に応じて連絡や、情報交換を行っている。良好な関係が築かれている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、日々のケアの中で説明を行っている。	代表者は、マニュアルを作成し、日々の業務を通して、職員に説明・徹底することにより、身体拘束に関する禁止の対象となる具体的な行為について、全職員に理解と周知を図っている。現在、対象者が1人。同意書を取り、適切な支援に努めている。また研修の実施記録も確認出来た。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファなどで行っている。		

福岡県 グループホーム この葉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	パンフレットなどで制度の説明、理解、知識の共有を行っている。	以前、制度を活用された入居者がいたことから、制度について、職員間では周知されている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、同意を得ている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談員も受け入れ、意見箱を置き又家族の面会時の話を聞くようにしている。	利用料の支払いを敢えて振り込みにせず、家族訪問の機会を定期的を作り、その際に意見の聴取に努めている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス等で反映を図っている。	月に1回の会議で、職員の意見・提案を聞く機会を設けている。また代表者、管理者は、平素から、職員が率直に意見を述べたり、積極的な提案をしやすいような雰囲気作りに努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	可能な限り、努めている。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員に個別に話をしたり、意見を聞いて改善したりしている。	代表者・管理者は、採用にあたり、性別や年齢等を理由に採用対象からは排除していない。また研修についても、案内や勤務調整を図る等、職員のスキルアップの機会の保証に努めている。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	パンフレット等をマニュアルファイルに入れている。	倫理規定を設け、人権の尊重を謳っている。また人権や虐待に関する冊子を備え付けるとともに、外部研修に参加した後は、報告会を行なう等、その周知に努めている。	

福岡県 グループホーム この葉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	カンファ等において技術を伝えている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の施設と交流を持っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、本人等に見学に来てもらい話をしやすい環境を作るように努力している。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族も見学に来てもらい、十分話を聞き不安除去に努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要となるサービスに対応できるように努めている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事はしてもらい、また一緒に行えるように努力している。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	最低月1回は来られるのでその時話が出来るようにしている。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブ等で本人の自宅近くなどコースに入れている。	現在、友人・知人の馴染みの方の面会がある為、継続されるよう面会者とコミュニケーションを密にとりながら、連携を図っている。また事前の情報や、日頃の会話から把握している馴染みの場所を、ドライブ時を利用し訪れている。	

福岡県 グループホーム この葉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	孤立しないように職員が中に入りみんなで 出来る事やゲームなど参加を促している。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前入居されていた家族からの相談に応じ ている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	おしつけない介護に取り組んでいる。	事前の情報や、アセスメント、日頃の会話 や行動から、本人の思いや意向を汲み取り、 職員都合ではなく、本人本位の思いの把握 に努めている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	入居してくる経過、在宅での生活状況を他 部門からも情報をもらうようにしている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	把握すように努めている。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	利用者の担当者を決め作成それをベースに 検討し作成をしている。	アセスメントをもとに、担当者が介護計画を 作成し、それを関係者で検討しながら、様々 なアイデアを取り入れ、臨機応変に、変化 する現状に即した計画の見直しを行なってい る。	アセスメントは、ADL中心、生活歴等が薄く、暮 らしが分り難い。本人の意思確認が困難 なケースを考慮するならば、ADL以外の把握も 期待したい。また計画書の目標については、医 療面に関することが大半であり、他の側面から のアプローチも加味することも期待したい。
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護を記録し状態把握に努めてい る。		

福岡県 グループホーム この葉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り、支援している。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方が庭手入れや畑を作り出来る利用者は参加。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診により身体的状態の把握に努めている。	本人・家族の希望を尊重し、納得のいくかかりつけ医への受診を支援している。また月2回の往診が行なわれており、適切な医療が受けられるように努めている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が勤務している。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した病院に定期的に行き相談員、看護師を話をしている。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、先生と話し、終末期ケアを行っている。	重度化した場合や終末期にあり方について、理念にも掲げ、指針をもとに、本人、家族、医師、職員間で、話し合いを重ねながら、思いや方針を共有し、主体的に取り組んでいる。また医療機関とも連携がとれ、実績もある。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時ファイルを作成し説明を行っている。		

福岡県 グループホーム この葉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を行っている。	年2回、防災訓練を実施しており、内1回は消防署の立会いもある。マニュアルも完備され、その内容については、役割分担、連絡網、入居者の状態等の記載があり、実用的に整備されている。また以前、豪雨の際、避難勧告が出された体験から、近隣住民と声掛けを行い、連携を図る関係が出来ている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保に十分注意を払い対応している。	個人情報保護に関するガイドラインが完備されている。記録物の取り扱いや、一人ひとりの言葉遣い、接し方に留意している。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の支援に努めている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り支援している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容、又は家族の希望があれば、外の店を利用		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	能力に応じて行ってもらっている。	調理専門の職員を配置し、一人ひとりの状態、嗜好を反映した細やかな対応を行なっている。出来合いのものを使用せず、薄味で素材を味を活かした食事提供がなされている。また準備や片付けについては、入居者が重度化している現状では困難である。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、排泄状態をチェックしている。		

福岡県 グループホーム この葉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を見ながら誘導を行っている。	排泄チェック表をもとに、一人ひとりの排泄パターン・習慣を把握しており、各々に応じた対応を行なっている。夜間帯は、睡眠重視の方針でオムツを使用しているが、日中はトイレ誘導を行っている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫や、運動、水分量などを工夫している。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	可能な限り支援。	午前中、2～3日おきに実施している。一人ひとりの希望、習慣を尊重し、状態に応じた支援を行なっている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々にあわせ支援している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容をファイルにし把握に努めている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩、レク等で楽しみ、気分転換を図っている。		

福岡県 グループホーム この葉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	散歩、ドライブ等を行っている。	<p>少人数単位で、季節感を味わってもらよう花見を兼ねたドライブや、近所の公園まで散歩している。また希望に応じて、職員と一緒に買物に出掛けている。</p>	
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	買い物などで本人が支払うように支援している。		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	希望があれば、支援している。		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	季節の花や、壁掛けなどに取り入れ、季節感が味わえるように工夫している。	<p>居間には台所が面し、調理の様子が五感で分かる等、生活感がある。また季節の花や手作りカレンダー等が、生活に潤いを与えている。また一人ひとりの状態を考慮して、ソファ等の配置換えを行なう等、絶えず居心地良く過ごせる工夫を行なっている。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	ロビーにソファを置きつろげるようにしている。		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	持ち込み自由である。	<p>本人や家族の意向を尊重し、使い慣れたものや好みのものの持込は自由である。また重度化にも対応出来るよう介護用ベッド、ナースコールが備え付けられている。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	可能な限り支援している。		